

令和6年度 自己評価書（最終報告）

2025. 3. 12 高水高等学校・同付属中学校

1. 建学の精神「徳性の陶冶」 — 教育による人格の錬成 —
2. 教育方針 — 3つの校訓による方針 —
 - (1) 徳育を重んじ師弟親愛による全人教育
人格の錬成に重点をおく。そのためには、教師と生徒との精神的親和が大切で、教師は常に熱意と誠意をもって生徒を導かなくてはならない。
 - (2) 堅実で明朗な人物の育成
青年は快活、明朗さが生命である。豊かな教養を培い、堅実で伸び伸びとした青年でなくてはならない。
 - (3) 勤労を重んじ実践力に富む人物の育成
勤労を尊び、事に当たって率先、かつ積極的でなくてはならない。この習慣を養うことが将来自己を幸福にし、社会国家にも役立つことになるのである。
3. 教育目標 — 学力・生活・進路について —
 - (1) 現状を把握・分析して問題を発見し、それを課題として整理し解決していく学力を養成する。
 - (2) 人と人の気持ちを大切にし、持続可能な多様性社会を志向していける人間性を育成する。
 - (3) 個々の適性や能力に応じながら得意なことや好きなことを活かせる進路を実現する。
4. グラデュエーション・ポリシー～育てたい生徒像～
 - (1) 自己肯定感が高まり成長を実感している。
 - (2) 自ら考え、判断し、行動する力が身についている。
 - (3) 社会人としての基本的習慣が実践できる。 ①挨拶 ②掃除 ③5分前行動
 - (4) 各キャリアプランに沿った希望進路を実現する。
5. 令和6年度の重点目標と方策
 - (1) 全員進級・全員卒業を目指す
・できるところを見つけて伸ばす ・授業の充実～めあて、展開,まとめ,振り返り～
 - (2) チーム担任制によるきめ細かい指導
・教職歴や得意分野に応じた指導体制 ・複数で多面的に見る ・状況を踏まえて仕事を分担
 - (3) 校務の効率化を推進し、生徒に関わる時間とゆとりを創造する
・校務支援システム導入 ・業務の精選
6. 前年度の成果と課題

【成果】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業時間数確保に努めたことにより、学力の定着に繋げることができた。 2. 朝の校外巡視や休み時間の教室巡回などで生徒に声をかけたり、状態を把握したりすることにより、迅速な対応に繋げることができた。 3. クラス（学年）通信の発行等により情報発信が改善できた。 4. 勤務超過への回復措置を周知し、働き方改革を進めた。 5. 姉妹校との交換留学を再開。円安、物価高騰の中、オーストラリアへの修学旅行が実施できた。 6. 大会上位入賞や優勝等、指導の成果が結果としてあらわれた。 7. 起立性調節障害等による授業時間数不足生徒への補講を実施し、進級、卒業への可能性を繋げることができた。 8. 昨年度5月8日から新型コロナウイルス感染症が5類感染に移行され、全ての行事を予定通り行うことができた。 9. 校舎と校内の施設・設備の修繕を行った。 10. 人目の付きにくい場所への防犯カメラ設置により、生徒の安心安全を強化することができた。 11. ホームページの見直しを実施した。
【課題】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員間の情報共有、共通理解が不十分である。 2. 本校の置かれている状況を考えると、さらにスピード感を持って学校の活性化を図る必要がある。 3. 安心感を持ってお子様を預けて頂くため、保護者への情報発信を増やす等の工夫が必要である。 4. 今年度から校務支援システムを導入したが、準備期間が短いため多くの課題を抱えている。 5. 効率的な学校運営により、働き方改革を進めなければならない。 6. 歴史と伝統を守りながらも、未来を生きる子ども達に必要な教育を見定める。 7. 施設・設備の老朽化による修繕が続いている。

7. 各学年の達成目標と目標達成の方策 ※達成度 4:8割以上、3:6割以上、2:4割以上、1:4割未満

	達成目標	目標達成の方策	達成状況	達成度
中一	1. 基本的な生活習慣の確立 中1:けじめ・思いやりのある態度で友だちに接する。	1. ①ホームルーム活動と授業を通じてマナー(挨拶、身だしなみ、態度、言葉遣い)指導を徹底する。 ②全教員が後片付け、掃除、整理整頓について同じ目線で指導できるようにする。	1. 自分の思いだけではなく、他者の考えも少しずつ尊重でき始めている。入学時より生徒同士の会話・笑顔が増えた。 2. 60%の生徒が達成することができている。 3. 35%	3
中二	中2:友だちを理解し、協力して物事を成し遂げる。 中3:何事にも自主性・積極性を持って取り組む。 2. 1日2時間の自学自習(毎日欠かさず、コツコツと) 3. 学力推移偏差値52以上	③生活実態調査等によって学習習慣状況を把握し個別指導に役立てる。 ④個人指導を重視する。	1. サマーセミナーを通して協力する姿勢が培われた。 2. 全体的にはまだまだである。 3. 5%	3
中三	学年受験生の5割を目指す。	3. ①成績上位層に対する課題や補習を工夫する。 ②成績下位者に対する早朝・放課後の指導を行う。	1. 学校行事に積極的に参加し、楽しむことができた生徒が多かった。 2. 家庭学習の習慣が身につけている生徒もいる。 3. 27%	3
六一	1. コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につける。 2. 得意教科をつくり文理選択に活かす。 3. 1日3時間自学自習 進研記述模試の偏差値57以上 学年受験生の5割を目指す。	1. 総合的な探究の時間・HRを中心に楽学祭、中六合同発表会を通じて能力向上の機会を提供する。 2. キャリア教育を充実させ、進路研修と個別指導を併用する。 3. 学習意欲の高い生徒および成績上位者への指導を強化する。	1. 発表機会を活用し、生徒の自信が向上した。 2. 進路研修や個別指導を実施し、適性を把握する生徒が増加した。ただし学習時間の確保が課題である。 3. 自学自習の習慣化を推進するも未達成者が多い。36%	3
六一	1. マネジメント能力、チームワーク能力を身につける。 2. 学部学科選択を意識し得意教科を2教科つくる。 3. 1日4時間自学自習 進研記述模試の偏差値57以上 学年受験生の5割を目指す。	1. 総合的な探究の時間や合同発表会、楽学祭などの行事でリーダーを務めさせ、会の進行や運営の経験を通じて能力向上の機会を提供する。 2. 大学オープンスクールへの参加を促したり、定期的な個別指導を通して指導をおこなう。 3. ウィンターセミナーによって受験体制への移行を意識化させる。	1. 行事で中心的な役割を果たすことができた。 2. 進路探究を進め、進学への意識を徐々に高めた。 3. ウィンターセミナーを経験し、学習に取り組む意欲が向上し、学習に取り組む姿勢が改善しつつある。12%	3
六三	1. 自己管理能力を身につけ、第一志望大学合格を達成する。 2. 個に応じた対策を徹底する。 3. 1日5時間自学自習 進研記述模試の偏差値50以上 学年受験生の7割を目指す。	1. 朝の時間や放課後を有効に活用し、受験に必要な力を身に付ける。保護者説明会等を活用し、保護者の理解を得た上で、受験勉強を通じた能力向上を意識化させる。 2. 個人面談の充実を図り、生徒一人ひとりに合った進路選択を進める。 3. 学年のムードづくりを心がけ、学年全員で受験に向かう姿勢をつくる。	1. 基本的な生活態度を保持させる努力をし、家庭での学習も意識させた。 2. 志望大学合格に向け面談を実施し、指導を行った。 3. 61%(17/28人 11月)	3

普一	1. 基本的な生活習慣の確立 2. コースに応じた進路指導の充実	1. ①8:20 13:05 着席指導 ②他教室への入室禁止 ③あいさつ、身だしなみの指導 2. キャリアパスポートを活用して、学習活動を記録する。また、それをもとに個人面談を積極的に行う。	1. 昼休み終了時、廊下で全体へ声掛けをして、注意喚起をしている。 2. 個人面談を通じて希望進路実現に向け、個別指導を行った。	3
普一	進路決定を早期に行い、実現に向けて努力する。 1. 基礎学力を身につける。 2. 身だしなみ、5分前行動等、マナーを意識する。 3. オープンキャンパスに積極的に参加する。	1. 朝学や総合的な探究の時間（スタディサプリ「課題発見型探究」）を活用する。 2. 校内巡回時に積極的に声をかけ、5分前行動や身だしなみについて意識させる。 3. 参加するよう面談等で声かけを行う。	1. 朝学習を有効に活用した。 2. 定期的に学年全体へ話をするなど、身だしなみや時間を守ることの大切さを伝えた。 3. 昨年度より参加率が向上した。	4
普三	1. 希望進路の実現 2. 社会人として必要な知識・マナーを身に付ける。 3. 受験（進学・就職のための）学力の修得	1. 複数担任・進路指導部の先生方と協力して生徒に対する個別面談を行い、より適切な進路を模索させる。 2. 就職ガイダンスへの参加、応募前職場見学を通じて、社会の一員となる心構えを持たせる。 3. 日常の家庭学習を充実させることにより、個々が必要とする学力の向上を目指す。	1・2. 概ね良好 3. 進路決定者は4月からのスタートに備えて準備を始めている。	4

8. 各教科の達成目標と目標達成の方策 ※達成度 4：8割以上、3：6割以上、2：4割以上、1：4割未満

	達成目標	目標達成の方策	達成状況	到達度
国語	1. 授業の質の向上 2. 朝学の活用 3. 新しい共通テストを見据えた教科指導	1. 教科内の情報交換を活発に行い、教材の厳選・授業展開の工夫・必要に応じてICT活用等を行う。 2. 朝学の運用方法や内容について情報交換し、検討するとともに改善を施す。 3. 第三問実用的な文章を含めた共通テストへの対策と、小論文等個別指導の充実を図る。	1. ICTを活用した授業展開が実行できた。 2. 朝学が授業につながるように内容の検討が必要 3. 高3(S.F特進)共通テストの演習を実施。小論文の個別指導が適宜できた。	4
地公社	1. 科・学年・コース等の特性に応じた指導 2. 社会の「生きた授業」の構築	1. 生徒の現状について担任等と密に連絡を取り、指導を進めていく。 2. 校外の研究会等に参加するなどして、積極的に情報収集を図る。	1. 課外授業で、科・学年・コース等の特性に応じた指導をおこなった。 2. 授業見学、出張報告、授業アンケートの振り返りなどを教科会議内でおこなった。	4
数学	1. 基礎的・基本的な知識の習得と技能の習熟 2. 習得した知識・技能を的確に活用する能力を伸ばす。 3. 数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。	1. 生徒の実態に応じ、学習内容を精査する。 2. 副教材や朝学を利用し、演習を通して自ら学び課題解決する力を養う。 3. 「わかる授業」「充実した授業」となるように、各教員が研鑽を積む。(相互授業参観、自己研修、校外の説明会や研究会への参加)	1. 科・コースに応じて進めている。 2. 副教材や朝学などを利用して反復練習をしている。 3. 生徒の学力差が大きいクラスもあるが、できる生徒も増えてきている。	3

理科	<ol style="list-style-type: none"> 主体的な学習の視点からの授業改善 コースに応じた評価・指導の工夫 	<ol style="list-style-type: none"> 個々の生徒の実態に合わせ、担任と連絡をとりながら、学習展開を進めていく。 自己研修・校外の説明会・研修会への参加を行い、情報を教科内で共有していく。 	<ol style="list-style-type: none"> 個別に指導を行い、おおむね基礎基本の習得目標を達成することができた。 コース別の授業アンケート結果から、生徒の興味ある教材・内容に注目し授業展開を行った結果、全体的に成績が向上した。 	3
英語	<ol style="list-style-type: none"> 自学を促し能動的に取り組めるような授業を工夫する。 学力差を配慮したわかりやすい授業展開 4技能のバランスを意識した授業展開 	<ol style="list-style-type: none"> 授業を工夫しながら行い英語に対する興味関心を持たせ、自主的に宿題に取り組み家庭学習の習慣をつけさせ、学力の向上につなげる。 習熟度別授業やチームティーチングなども有効に活用し、学力の違いに対応できる指導を行う。 暗唱テストやリスニングテスト、さらにはグループ発表やグループディスカッションなどの活動を取り入れ、生徒のレベルに合った活動を取り入れる。 	<ol style="list-style-type: none"> 小テストや宿題を活用し、生徒に意識づけを行った。 各クラスの実情を踏まえながら取り組めた。 中学校・六年制では展開できた。普通科では難しいのが実情だが、授業中の音読や暗唱テストなどをなるべく取り入れるように努めた。 	3
保健体育	<ol style="list-style-type: none"> 授業中の安全管理と規律ある授業 授業内容・評価方法の再確認 男女共修・種目選択を多く取り入れる。 	<ol style="list-style-type: none"> 授業前の人員報告、見学シート等の活用 新しい先生を迎え、教科会議を固定日以外にも適宜設定する。 苦手意識のある種目をさけ、積極的に取り組める状況をつくる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1・2. 順調である。 3. 寒くなり集合状態がやや悪くなってきているが、概ね良好 	3
芸術	<ol style="list-style-type: none"> 生徒の基本的な生活習慣をより高める。 	<ol style="list-style-type: none"> 科の申し合わせ事項（重点目標）に留意し、共通理解を深めると共に、歩調を保つ。 	<ol style="list-style-type: none"> 身だしなみ等、授業内で気を付けるよう注意した。寒い時期に服装等が乱れる生徒がいたが、徐々に改善されてきた。 	4
家庭	<ol style="list-style-type: none"> よりよい生活を実現する実践的な態度を養う。 生徒の実態に応じた授業展開 	<ol style="list-style-type: none"> 体験的な学習活動を通して、基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。 評価につながるようにクラスの状況に応じた授業の進め方を工夫し、授業改善に努める。 	<ol style="list-style-type: none"> 生徒によっては家庭生活に関心を持ち、課題解決に向けて考える姿勢が見られるようになった。 生徒の実態に応じて、授業展開の工夫に努めた。 	3
情報	<ol style="list-style-type: none"> 情報モラルやマナーを身につけさせる。 情報リテラシーを身につけさせる。 	<ol style="list-style-type: none"> SKYMENUを活用して幅広い内容を指導する。 PCを積極的に活用し問題解決能力を身につける。 	<ol style="list-style-type: none"> 1・2. 情報通信機器とネットの活用における情報活用能力を正しく身に付け、安んずかつ安全な生活を送るよう指導した。 	3

9. 各分掌等の達成目標と目標達成の方策 ※達成度 4：8割以上、3：6割以上、2：4割以上、1：4割未満

	達成目標	目標達成の方策	達成状況	達成度
総務部	1. 総務部各業務の効率的な管理・運営を目指す。 2. P T A活動の活性化の手助けを円滑に行う。	1. 総務の業務内容全般を把握し、全業務のマニュアル化をすすめる。 2. P T A関係の業務はできるだけ早めに開始し、余裕を持たせる。	1・2. 部内の各業務について、文字（映像）による記録化に取り組んでいる段階である。	3
教務部	1. 校務支援システム「BLEND」の活用方法を周知徹底する。 2. ミスのない円滑な業務の遂行	1. 「BLEND」の様々な機能について研究し、各教員に使用方法などの説明をするとともに、実際に活用してもらう。 2. 複数の担当者が業務に携わることで、チェック機能を強化してミスがなくし、各業務内容を処理できる教員を増やす。	1. ほぼ滞りなく進行しているが、慣れからのミスも増えてきている。 2. 担当者が単独で業務にあたることが多い。そのため、チェック機能が働かずにミスとなったことが数点あった。	3
生徒指導部	1. 校訓を柱とした生徒指導 ①師弟親愛・・・信頼される生徒指導 ②堅実明朗・・・主体性を育む生徒指導 ③勤労実践・・・率先垂範の生徒指導 2. 充実した学校の創造（前向きな発言をする） ①人間関係構築 ②校内整美 ③主体的活動 ④事故防止 ⑤マナー向上	1. 校訓を柱とした生徒指導 ①生徒・保護者・教職員が三位一体となり、生徒を目標達成に向け導く。 ②人間教育を重視し高水生としてプライドを持てるよう導く。 ③教師が手本となり、社会に貢献できる人物となるよう生徒を導く。 2. 充実した学校の創造（前向きな発言をする。） ①各種アンケートの充実、挨拶の励行 ②地域・学校貢献、全校一斉清掃日設定、教職員自主清掃 ③行事の主体的参加、ボランティア活動の積極参加、生徒会活動充実 ④交通事故ゼロ、交通安全教室の実施、交通安全週間の設置 ⑤マナー研修の充実、登下校指導の実施、外部通報件数の減少	1. 生徒指導部の教員を中心として、各学年の教員を含めた生徒指導を展開することができている。 2. ②の全校一斉清掃日設定、④交通安全運動実施についてはできていない。	3
	いじめ防止	1. いじめの未然防止と早期発見、早期解決に学校全体で取り組む。	1. 学期ごとにいじめアンケートを実施する。集約された情報については、いじめ対策委員会で共有し、迅速かつ組織的に対応する。	小さいことも見逃さないようにする意識が高まっている。

進路指導部	<ol style="list-style-type: none"> 1. 共通理解を促す会議の運営 2. 情報収集と提供 3. 保護者進路説明会・生徒進路研修会の充実 4. キャリア教育の研究 5. ICT化の推進 	<ol style="list-style-type: none"> 1. <ol style="list-style-type: none"> ①高3進路指導連絡会議を早期に開催し、指導の在り方を共有し、ミスマッチを回避する体制の構築を図る。 ②年3回進学指導連絡会を開催し、生徒の進路希望状況の共有、模試結果の分析と進路実現の方策を踏まえた進路指導に取り組む。 ③推薦会議（公募・指定校）・応募先検討会議に際し、生徒の状況を十分に把握の上、的確な進行に努める。 ④出願報告会議では生徒の状況・入試動向の把握を踏まえ、次年度に向けた指導の連続性も考慮しつつ、充実を図る。 2. 共通テスト・新課程入試・求人状況など関連業者とも連携して情報収集に取り組む。また、上級学校の教育力や就職力の情報を収集し、共有化を図る。情報の提供方法について構築に努める。 3. <ol style="list-style-type: none"> ①1・2年生の保護者には、進路選択の指針を提示し、3年生の保護者には年間スケジュールの周知を図る。各学年の保護者に伝えるべきことを明確にする。なお、就職関係（11月）の説明会については出席を促す。 ②随時目的・時期・内容などを点検する。生徒アンケートなどで満足度を把握し、改善の参考にする。 4. <ol style="list-style-type: none"> ①キャリア形成の一端を担う進路指導という観点から関係教員による面談の実施を促し、進路選択を模索させ、生徒の状況把握を進める。 ②総合的な探究の時間などをキャリア教育と連動させ、各科・学年で年間計画を立案する。探究活動を系統的・組織的に実施し、プレゼンテーション能力の向上に加え、考察力・分析力の深化を図る。 5. 「進路希望調査」・「共通テスト統計」・「業者追跡調査」・「進路調査」などの統計処理及び「進路情報」・「求人票一覧」・「指定校一覧」などの情報提供に関して、ICTを活用し、データの一括管理を推進する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 進学指導連絡会を通して、3年生の進路先の共通理解が図れている。現段階で3年生149名中113名の進学が決まっている。国公立出願報告会では出願生徒の確認を行った。 2. 教員間での情報共有が図られている。 3. 計画通り実行している。 3 学期に普通科1年・2年対象の進路説明会が残っている。 4. おおむね順調にできている。 5. 求人票の電子化、進路情報のPDF化などを進めている。 	4
保健部	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒の健康・安全を最優先に考え、保健指導や怪我の防止に努める。 2. 校務支援システム導入による分掌業務への様々な影響の検証と研究 3. 他分掌等との連携 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康診断・調査を基に健康指導を行うとともに、怪我や緊急時の対応を迅速かつ的確に行う。 2. 昨年度のシステムとの同時進行による比較と工夫 3. 管理職や各部長（主任）との活発な報・連・相 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 概ね良好である。 2. 使い勝手の悪いシステムもあった。 3. 他分掌の協力もあり良好である。 	4
事務室	<ol style="list-style-type: none"> 1. 業務の効率化 2. コストの削減 3. 職員のモチベーションの向上 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 業務の効率化により仕事の質の向上を図る。また、常に向上心を持ち続け正確に業務を行う。 2. OA機器等の活用を加速させ、単位時間当たりの力量を強化する。また、消耗品等の消費を抑え、支出の削減につながる努力を推進する。 3. 業務過多や長時間労働にならないよう、時間内事務処理を目標とし、少人数で行う業務から、職場環境を整えることに努める。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 業務が滞ることなく意識を高くもち、取り組むことができた。 2. 消耗品等の消費抑制はOA機器を利用することで推進できた。 	4

10. 学校運営の達成目標と目標達成の方策 ※達成度 4:8割以上、3:6割以上、2:4割以上、1:4割未満

達成目標		目標達成の方策	達成状況	達成度	
特別活動	1. 学校行事へ積極的に取り組むことにより、生徒の自主性を伸ばす。 2. 在学期間を見通した計画により運営する。 3. 生徒会活動を活発にすることで、生徒の経験値を高める。	1・2. 学校行事は早い段階で計画案を検討し、生徒会主導のもと全校で連携して取り組む。 3. 将来の展望を教職員間で共有し、クラブ・同好会活動の活性化を図る。	1. 概ね達成できた。 2. より充実させたい。 3. 生徒会主導のもと全校で連携して取り組むことができた。	3	
学校運営	1. 普通科、六年制普通科、付属中学それぞれの特色・魅力を活かし伸ばすとともに、地域へ向けて情報発信に努める。 2. 授業・特別活動・部活動等の各種活動を通じて、生徒の自己肯定感を高める。	1. 学校の特色・魅力をPRしていくために、SNSを通じて学校の情報が的確かつ有効に伝わるよう、情報発信の時期・内容・方法を工夫する。 2. 生徒の自主性を大切にしながら、個々の活動にどう取り組ませるかを工夫する。また、成功体験や達成感を味わえるよう一人ひとりをフォローする。	1. 地域の文化祭に出展し、新しい関係性が生まれた。また、情報発信に努めた結果、中学校の教育内容に興味を持って頂き、問い合わせが増えた。 2. 六年制普通科はVR体験など新しい体験学習を取り入れ、普通科はサタデープログラムを通し、個々の体験学習を充実させることができた。	3	
業務改善	組織等の	1. ICTの活用により、組織的、体系的な業務の見直しと改善を図る。	1. 校務支援システムを最大限に活用する。 ②校務分掌間における業務内容の共有と協働に努める。	校務支援システムの活用により、業務改善が進んだ。	4
	日常的な業務	1. ICTの活用による業務の効率化とOJT（オンザジョブトレーニング）の推進を図る。	1. ①ペーパーレス化と業務の効率化を同時に進めることによって、仕事の全体量低減を図る。 ②校内LANの活用により、教職員間の情報の共有・連携・協働を図る。	ICT機器を活用した業務の効率化や、情報共有が本格化した。	4
	勤務状況	1. 勤務時間適正化と時間外業務時間の縮減を推進する。 2. 教職員の心身の健康増進を図る。	1. ①年休・代休等の休暇が取得しやすい職場環境づくりに努める。 ②時間外業務時間縮減を意識して、日常業務の効率化を推進する。 2. 積極的な働き掛けにより、健康診断における要精密検査の受診率の向上を図る。	1. 超過勤務の回復措置を取り入れた。 2. 教職員の健康診断を期末考査期間中に実施することで受診率の向上に努めた。	4

11. 本年度の取り組みの成果と課題

【成果】	1. チーム担任制の導入により、学年全体で生徒に声をかけて状態を把握した。そのため、担任業務の負担を軽減できた。 2. 普通科のサタデープログラムがスタートし、土曜日に部活動ができるようになったことで部活動が活性化した。体験学習を通しての学びを深めることができた。 3. クラス（学年）通信の発行やBLENDの活用により、情報発信が改善できた。 4. 勤務超過への回復措置を強化し、働き方改革を進めた。 5. 姉妹校であるサザンクロス校の協力（ホームステイ）により、円安、物価高騰の中にあってもオーストラリア修学旅行が実施できた。 6. 部活動における優勝や大会の上位入賞等、指導の成果が結果としてあらわれた。 7. 特例措置を設け、授業時間数不足生徒の進級、卒業への可能性を繋げた。 8. DXハイスクール事業による施設設備の充実と共に、ICT機器を活用した体験学習を取り入れることができた。 9. 老朽化した製氷機の更新、化学教室の補修工事、部室の修繕等により、生徒の安心安全を拡充することができた。 10. 使用が不可能な学校備品を廃棄処分することで、環境整備を進めることができた。
【課題】	1. 不登校生徒が登校できるように、また、授業に復帰できるような仕組みと体制作り。 2. 学校全体で「わかる授業」、「生徒が主体的に取り組む授業」を実現する。 3. 全教職員が積極的にICT機器を活用する。 4. 教職員減少による校務負担の増加や部活動顧問不足等への対策を講じる。 5. 普通科で実施したサタデープログラムの内容を見直し、より充実させる。

